

当然、厭な事は厭な事ですよ。しかし、厭な事が何故あるのか、それを自分ほどのようにしているのか——それをよく自分で振り返る必要があるんですね。

自分勝手な事をして、それは通らないんですよ。何故かと言いますと、人間始め、万生万物（万象万物の意）全ての中で、人間だけが勝手な事をしてご覧なさい。そのうち行き詰まりますよ。今、人間はそれをやってる訳です。

今の飛行機じゃないですけども、この前の大規模な山崩れ、地滑りもそうですよね。沢山の家が流されたでしょう。あれは自然になったんじゃないんですよ。あれは、人間がやったんですよ。人間が崩したんですよ。そういう原因をちゃんと造っている。

ところが、そういう事はみんな自然現象みたいなことを言ってみたり、今度は行政が悪いと言ってみたりと、こうなってる訳ですよ。決してそうじゃないですね。

そういう事をみんな分からない。これは、引いては自分の生活の中にみんなありますよ。——そうですね。

一一一、困った時の神頼み——他力の心と信仰

高橋先生の話というのは、先程申し上げたように、「こうなりたい」、「あゝなりたいたい」と、そういう事じゃないですね。

ところが、この文明の世の中にしても、コンピュータをパチャノ／＼やっついて、「おじさん古いよ」なんて僕等に言う若い人達、大学を受験する高校生にしる、合格する為に、絵馬を買う訳ですよ。——そうですね？

しかも、浪人している人は、去年は三千円を買って駄目だったから、今度は五千円を買う人がいる。（笑）それで合格したら大変ですよ。

そういう子供達が、今度は学校を出て、文明の社会に入ってくるんですよ。おかしいと思うんですけどもねえ……。みんな思わないんですね、それが——。

試験の時期になったら、絵馬の売れること売れること——。行って見て来てご覧なさい、その辺にもあるでしょう。あれよく／＼と言ってるうちに売れるから——。

もう神任せか、人任せだか分からないような事をやってる訳ですよ。

そして、それやると合格出来ると思うんだから、またこれが困りますよねえ。みんな勉強もしないで、そういうものを買う訳でしょう。

この頃は、学校より塾が大事だそうですよ。——阿呆な事言っちゃいけない。これはしようがないですねえ。まあ、人生いろいろなものがあるけれども、私は若い人達だけでもね、本当の事が分かって貰いたいと思いますよ。

まあ、年取った人はね……私も年寄りだけでも、先がもう無い訳ですよ。(笑)ですから、これはもう一所懸命に生きる外に無いですけれどもね。

これからの人は、本当の事を分かって、人が遊んでいても、自分是一所懸命やれるような若い人になって行って貰いたいですね。

そうしないと、私達の住んでいる処が住めなくなるんですよ、本当の事を言うとなね。こういう事は、幾ら押んでも、何をしても駄目なんですよ。

これはこの前、私の処に新興宗教のT教の、もうカチン／＼の信者の人が相談にみえたんですね。何しにいらしたんでしょう。——その人は、顔面神経痛なんですよ。

その奥さんが仰るには、

「私は、何故こんな病気になったんでしょうか……」

「奥さん、あなたね、T教でしょう」

「はいそうです」

「T教の神さんは、治してはくれないんですか？ 何故そうなったのか、教えてくれないのですか？」

「はあ、教えてもくれませんし、治してもくれません」

と、それで私の処に聞きに来たんですね。ですから、
「あなたはね、家庭の中で、嫁姑の関係で、心の中に大変な憎しみを持ってね、生活をしているから、そうなるんですよ。あなたの顔面神経痛はそれが原因ですよ。そういう心を直せば、直ぐ治りますよ」

と言ったんですけど、これは、病院に行っても分かりませんよ。心＝精神的なもので顔面神経痛になっている訳ですからね。恐ろしいですねえ……。

これは、T教にしても、他の組織や団体に入っても治らないですよ。押んでこうや

って、手を翳したりしても治りませんよ。ペンダントをぶら下げても治りませんね。そしてそういう処に行つて、ペンダント代を、まあ、何万円か、神様に差し出す訳ですね。これが神さんなんですね。こんな小さな神さんがあつたら大変ですよ。

日本に今、宗教法人が三〇万もあるそうですよ。神さんが、三〇万人もそんなにいる訳が無い。神様は一人しかいないですね。その人に、

「あなた、T教を辞めますか？」

「いやあ、辞められません」

辞められませんか——。(笑) そういう事になってしまふんですね。

私はその話を聞いた時にね、この方には、それ以上は言わなかったけれども、「今の宗教というのは怖いなあ」って思つたんですねえ。辞められないんですよ。ですから私達は、物事に夢中になつてはいけません。

一、今、自分がやつてる事は、一体どういう事かな？

一、これをやつたら家庭がどうなるのかな？

一、身体は大丈夫かな？

一、財布の中身は大丈夫かな？

と、そのくらいの事は考えなければ、大変な事になってしまうんですね。しかしこういう事は、四六時中ある訳ですよ。

この前も私は一寸話したと思ひますが、壺を六〇〇万円も出して買う人いる訳ですよ。その人、T会という新興宗教に入ったんですが、そこで壺を買わされる訳ですね、ご利益があると言われて——。

その壺を買う為に、田圃を売らなくてはいけない人もいるんですよ。

「あなた、そんな事しちゃダメですよ」って私は言いますよね。私は心配ですよね、「話したけれども、あの人、止めたかなあ」と思つていたんですね。

そして次の月に、そちらの会場に話をしに行つた。その人の知り合いの人に、「あの人、どうなりました？」

「いや、実は今日、朽木先生がいらつしやるというので、その壺を勧めた人を連れて、話を聴きに來る事になってます」

と、仰つたんですね。で、暫くしたらその人から電話が掛かつてきた、

「今日は先生の処にお伺いしようと思つてたんですが、町のお祭りでお祭りでカラオケ大会があつて、私、そのカラオケ大会に出なくてはいけなくなつたもんですから、今回はそちらに参りますので。次回に先生の話を聴かせてください」

と、言われた。私は、「話を聴いてくれ」つて頼んだ訳じゃないですからね。——一寸、何だか当たり前のような話ですけど、おかしいですね。

この方は、一反歩の田圃（約三〇〇坪）と私の話を交換する訳です。——そうですね。話を聴いて相談があれば、その勧めた人に言つて、その人は止めるかもしれない。

ところが、それよりカラオケの方が大事なんですよ、人間は——。（笑）カラオケが大事なんですよね。自分が田圃を売つて、その六〇〇万円を注ぎ込まないといけないのと、カラオケと私の話と、何だかごっちゃにしてるんですよ。恐ろしいですね。

カラオケつてそんなにいゝんですかね。私、カラオケやったこと無いから……楽しんでんだろねえ、あれは——。（笑）

おそらく、あの人は、一反歩の田圃を売つたんじゃないでしょうか。

まあ、その話を聞いて私は、がっかりする訳にもいかないけれど、本当はがっかり

しましたよね。折角この人は、こういう話を聴いたのにね……。

その人の旦那つていう人は、おとなしい人で、その奥さんが強くてガーガー……言つて、旦那はもう奥さんの言う通りになつてしまう。

ところが、その田圃がある処が、段々段々宅地になつてきているから、高く売れる訳ですよ。しかし田圃を幾ら持つていても、売つてしまつたら無くなつてしまう。

また、そういう人を騙して、お金を取る人がいるんですね。恐ろしいですよ……。

この宗教団体は、キリストの名に於て、壺を買わせる訳ですよ。

ねえ……本当にイエス様が聴いたら、何て仰るでしょうか。恐ろしいですね。

——それが、私達の世の中なんですよ。

まあ、皆さんはそういう事はしていいでしょうから、分からないかもしれないけれど、私も本当はそんな事は分らないんですけどね、いろんな人が来るんですね。

私は、組織も何もありませんから、いろんな人が来るんですよ。そのお蔭で私はいろんな勉強になる。有り難いですよね。

——ここで一寸、休憩だそうです——（二五分間中断）

——次回に続く

次回『三三』ある僧侶の相談——お墓への執着』の更新予定は6月の第2週目です。
どうぞお楽しみに。